

新しい発見をしよう！やってみよう！伝えよう！

春風サミットを開こう！

西宮市立春風小学校 校長 宮脇 直代
教諭 田村 修史

1. はじめに

本校は全児童数が 800 人を越え、市内でも比較的大きな学校である。校区は国道 2 号線より南、阪神電車甲子園駅より北となっており、住宅地が密集している地域である。徒歩でも甲子園球場にも行ける地域なので、子どもたちはプロ野球や高校野球のニュースをよく読んでいる。子どもたちからは、実際に観戦に行った話や、新聞やニュースで知った出来事についてよく話をしている機会を目にすることも多い。

また、学校北側に隣接する瓦林公園をはじめ、春風公園など子どもたちが遊びやすい環境が整えられている。集団登校では、各地域の保護者が当番制で、保護者も来校する機会も多く、参観日だけではなく普段から子どもたちの様子を見守ってくれている。

そんな春風小学校が新規に N I E 実践校として始まる前に、アンケートをおこなった。約半数の家庭が新聞を購読している結果が出たが、新聞を読むことはニュースを知り、学習にもつながると思っている児童が 90% を超える一方で、実際はほとんど新聞を読んでいる子どもはいなかったのが現状だった。

また、保護者と子どもの間にも新聞を通じて話す機会もほとんどないことが分かった。今回の N I E をきっかけに新聞を通じて保護者と子どもの間にも新しい話題が増えることを願いたい。

2. 工夫その 1 (新聞の置き場と活用方法)



N I E を始めるにあたって、職員間でも何ができるのかを話し合った。その中で、まずは普段の生活に新聞を浸透させていくことを提案した。

左の写真のように、子どもたちが一番通る玄関ホールを新聞の掲示場所にした。9 月から始めたので、子どもたちは普段の景色とは違う玄関ホールに興味を持つようになった。

準備方法としてまずは子どもたちが登校する前に、担当教諭が全 6 紙を掲示し、見てほしい記事や、西宮の記事、話題となっている記事などをペンで囲むなどして目立つように掲示をおこなった。

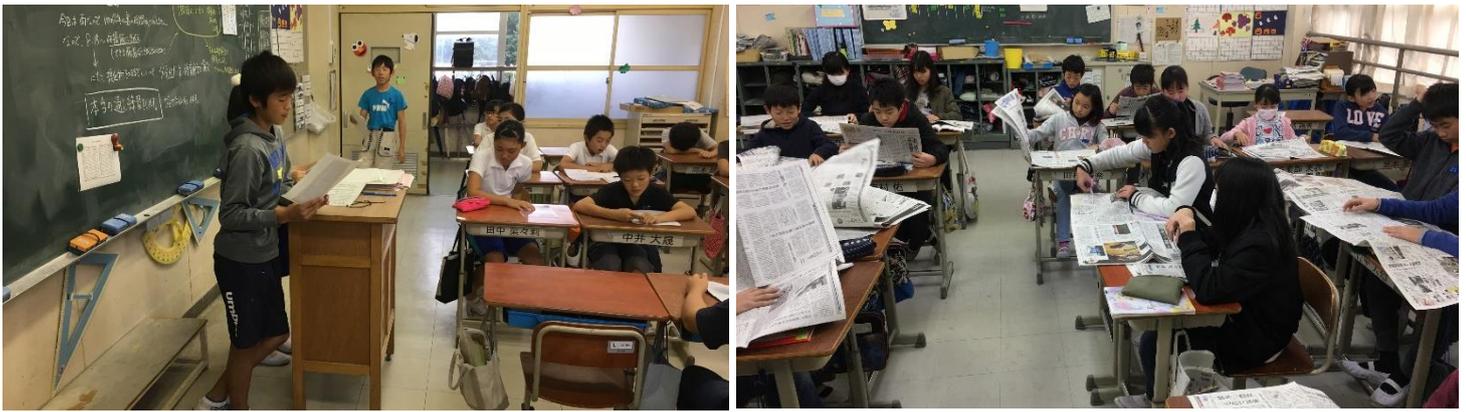
貯まった記事や過去の新聞は、なるべくたくさん

の教室に持って行ってもらい、各教室でも子どもたちの目にふれやすい場所に置いてもらうことにした。

また、高学年である 5・6 年生は給食当番の集合場所を新聞前に設置することで、エプロンをつけて早く集合できた子どもたちは、自然に新聞を読みながら待つことができた。知っているニュースをお互いに話したり、同じ記事でも、新聞社によって微妙にちがうところを探したりと楽しそうに読んでいる姿を見ることができた。

また担任の先生と新聞を通じて会話をしている機会もたくさん見ることができ、活用方法としては有意義なものになった。

3. 工夫その2 (スピーチの工夫)



春風小学校では、日番になった児童が朝のスピーチを行っている。今回はN I Eの新聞が届いている時に、気になった記事を切り取り、スピーチの題材にした。

最初の頃は、自分の興味のある記事を選んでスピーチをしていたが、徐々に慣れてくると、気になった記事から皆に訴えたい記事を選ぶ児童が増えてきた。スピーチの質が徐々に上がってきたのも子どもたちの感想や振り返りから分かる。

4. 工夫その3 (春風サミットを開こう！)

6年生・国語科の単元「町の幸福論・コミュニティデザインを考える」(東京書籍・新しい国語6)では、新聞を利用した学習をおこなった。この単元でつけた力・目標は、「①複数の資料を読んで、情報を活用する力をつけること ②意図が伝わるように、資料を効果的に活用して発表する」である。

2学期にN I Eの実践でスピーチをおこない、新聞を読む力を少しずつつけてきた子どもたちは、この単元で複数の資料を探す場合、新聞から記事を選んできた。

春風小学校の校区で起きている問題点や、気になっている場面をグループで相談し、他の市や他の学校での取り組みについて調べることができた。



調べた内容はクラスによって違うが、どのクラスも身近な話題を上手に調べることができた。例えば、よく遊んでいる公園での問題点や、防災公園の必要性などを調べたグループもあった。

校内を調べたグループは、縦割りグループで他の学校がどのような取り組みをしているのかを調べているグループもあった。

新聞には、自分達が知りたいことや、興味のあることが最新の状態で知ることができるとも分かったようだ。

各クラスで発表会をおこなった様子が、1枚目の写真である。調べてきたグループをさらに皆でアイデアを出し合い、さらに良いアイデアを皆で出し合うことができた。

次の写真は、「春風サミットを開こう！」



の様子。各クラスで発表会を行った後、各クラスの代表グループが、学年全体でさらに改善された提案を発表した。

また、6年生だけではなく、校長先生・教頭先生を初め、保護者の方々や地域の方々も招待し、一緒に地域の問題点や改善点を話し合う機会を設けることができた。

子どもたちの思っている意見を直接、地域の方々にも伝えることができ、充実した単元となった。

また発表では、子どもたちがパソコンを使用してプレゼンテーションも行った。最初は戸惑いながらも、

どうすれば自分たちの想いがうまく伝わるのか、分かりやすいのかを考えながら発表することができた。その時に参考にしたのは、新聞の見出しだった。また、写真の使い方や記事も参考にすることができた。

体育館で授業をおこなうこと、スクリーンに自分達の提案を出すことで、聴いている他の子どもたちの反応も新鮮であり、頑張った分の達成感を得られることができた。

発表をしなかった他の子どもたちにも、質問タイムを設け、自分たちならこんなアイデアがあるといった意見を言う時間を作ることで、一緒に考えることができた。

また、地域の方々や保護者の方々からも活発な意見をもらえることができた。大人の目線や、子どもからの目線が入り混じって、有意義な意見交換会にもなった。

子どもたちの熱心さを地域の方々にも聴いてもらえたことが、子どもたちと地域の方々の共通の話題にもなった。



地域の課題 児童ら解決策

西宮市立春風小学校はこのほど、児童が考えた地域の課題解決策を発表する「春風サミット」を開いた。6年生4クラス代表19人が児童や地域住民ら約500人を前に思い思いの提案を紹介した。(奮闘和郎)

日本新聞協会は本年度、同校をNIE実践指定校に認定。6年の児童らが新聞記事の切り抜きを授業や朝の会で活用している。膨大な情報の中から必要な情報を選び取る力を身につけてもらおうと、6年の担任らがサミットを企画。415人の班に分かれた児童らは地域や校区の課題を挙げ、新聞やインターネット、図書館などで解決策の例を探してオリジナルの提案をまとめた。

西宮の学年間の交流などテーマ
春風小の学年間の交流などテーマ

1. 台詞の言葉
ぼくたちが気づいた
町の未来
みんなが利用し
たいものも探そう
児童にも伝わるように



5. 実践の感想と今後の課題

神戸新聞の2017年11月14日付朝刊より

実践の感想としては、教師側が思った以上に子どもたちは、観られること、伝えることをとても楽しみながら学ぶことができた。その中でも、自分たちが頑張った「春風サミットを開こう！」の記事が新聞に載ったことで、とても喜んでいて、新聞に載ることのうれしさを学年全員で体感できたことがとても良かった。

岡本明徳(さん)は、この班では、クラス38人を対象にアンケート、9割近くが他校の取り組を10人以上に上言えない回答したことから、「お互いの名前を覚えておいたらいい」という学校をテーマに決定。インターネットや新聞で他校の取り組みを探し、「1月1日他の学年と一緒に昼食を取る」「他学年へ編み物を贈る」「縄跳びの開催」などを提案した。岡本さんは、情報を集めるのが大変だった。発表は緊張したが、他の班の提案もとても勉強になったと話していた。

児童らが地域課題への取り組みを紹介する「春風サミット」西宮市上甲子園。

また、当日参加していただいた方々も記事を読んでもらえたことで、改めてすてきな時間を一緒に過ごすことができた。

その一方で、当日参加出来なかった保護者や地域の方々からも、新聞の記事を読むことで伝わり、新聞の発信力のすごさを実感することができた。



神戸新聞の2018年1月14日付朝刊より

2か月後の1月14日の記事の中で、再び「春風サミット」についての記事を見つけることができた。新聞に載るということは、たくさんの方々の目にも止まり、新しいつながりを感じられるように思えた。

普段、子どもたちがあまり読まない記事に自分達のことを細かく書かれていたため、子どもたちは夢中になってこの記事を読んでいた。こちらが予想する以上に、この1年間で新聞について子どもたちと共に考える・学べる機会になった。



神戸新聞の2017年12月3日付子ども新聞「週刊まなびー」より

最後に、12月3日の「週刊まなびー」ではたくさんの子どもの話の話題が記事として取り上げてもらえた。自分たちの書いたことが記事になることで、また載りたいと思える子どもたちが増えたことも確かである。

2年目となる18年度は、その結果を踏まえてたくさんの記事を書いて応募し、記事にしてもらえるような取り組みをしていきたいと考えている。そのつながりが、子どもたちの学習意欲にもつながると信じている。